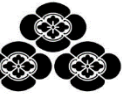


# 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡保存活用計画（素案）【概要版】



## 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡の概要

一乗谷朝倉氏遺跡は戦国大名である朝倉氏が計画的に築いた、5代百余年にわたって続いた領国支配の拠点です。一乗谷の平地部には朝倉氏の当主や家臣たちの館跡及び城下町の跡が、山林部には山城跡が、後世の改変をほぼ受けず良好に残されており、「戦国大名の総合的遺跡として唯一の遺例」ともいべき点が評価され、約278haが特別史跡に指定されています。



下城戸跡

平面復元地区

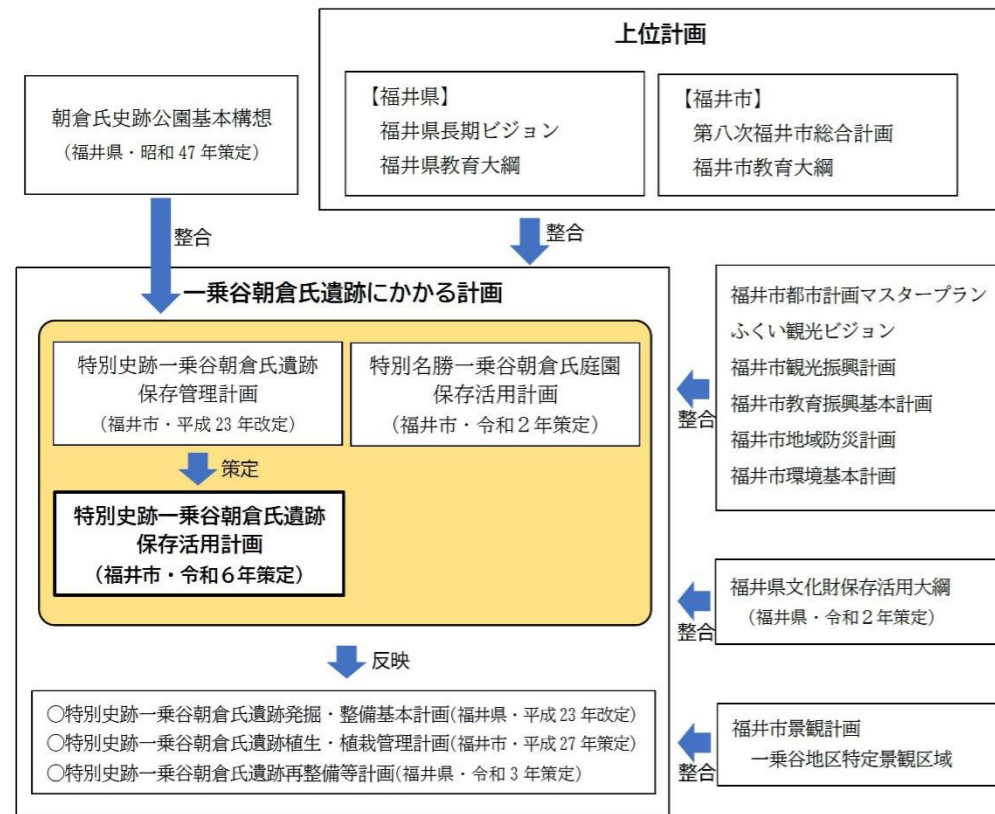
朝倉館跡

諏訪館跡庭園

## 保存活用計画策定の目的

一乗谷朝倉氏遺跡では昭和42年の発掘調査の開始から50年以上にわたり、遺跡の調査研究や環境整備、維持管理に努めています。しかしながら当初の整備から半世紀以上が経過した現在、遺跡の保存活用を進める上で様々な問題が明らかになり、その対応が急務となっています。また、遺跡を取り巻く社会状況も大きく変化し、新たな計画の必要性が生じてきました。

そこで、今回改めて本遺跡の現状や課題を整理し、適切に保存・活用していくための基本方針等の指針を示すため、『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡保存活用計画』を策定することとしました。



関連計画相関図

## 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡の本質的価値

特別史跡の指定理由と指定後に判明した新たな知見を踏まえて、これまでの評価及び策定委員会での議論をもとに、本質的価値及び本質的価値に準じる価値を次のように整理しました。

### 一乗谷朝倉氏遺跡の本質的価値

#### 戦国時代の越前国を治めた大名の本拠地としての遺構群

本遺跡は、越前国を治めた戦国大名朝倉氏の本拠地跡です。当主館や家臣団の屋敷、寺院、町屋、庭園などが築かれた城下町と、城下町の内外を画する城戸や櫓、山城といった防御施設等が良好に保存されています。

#### 城下町と山城が築かれた地形

城下町が築かれた川沿いの谷部と山城が築かれた山林部で構成される本遺跡の地形は、現在までほぼ改変されることなく遺っています。一乗谷の各所を視点場として、戦国大名の本拠地としての本遺跡の立地を理解することができます。

#### 遺構及び地形から多面的に理解できる戦国大名の本拠地の様相

本遺跡で発掘された明らかになった遺構と、残っている地形から、戦国大名の本拠地の様相が理解できます。特に朝倉館跡は発掘された遺構と文献資料を重ねて具体的に検証できる稀有な遺構です。

### 一乗谷朝倉氏遺跡の本質的価値に準じる価値

- ・調査で出土した遺物
- ・集落景観、山林景観及び史跡景観
- ・遺構表示と復元建物
- ・近世以降の遺構・遺物、社寺、史資料、伝承等

## 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡の大綱

一乗谷朝倉氏遺跡の保存と活用を進めていく上での基本的な考え方を、本質的価値を踏まえ、次のように整理しました。

- 1 一乗谷朝倉氏遺跡の本質的価値を確実に保存し、活用する
- 2 平地部及び山林部にわたって一体的に形成された一乗谷朝倉氏遺跡の景観を保全する
- 3 戦国時代研究をリードしてきた一乗谷朝倉氏遺跡の調査研究を継続し、その価値を発信する

## 基本方針と方向性

一乗谷朝倉氏遺跡の保存と活用の進め方について、遺跡の現状及び課題を考慮するとともに、大綱を踏まえた上で、次のようにまとめました。



### 【保存】

- ・本遺跡の本質的価値を確実に保存し、後世へ継承する。  
⇒本質的価値の構成要素について、個別に適切な保存と維持管理の方法を定める。また、周辺も含めた地形や景観の保全も併せて行う。  
⇒遺跡の保存・活用に関する行為や住民の生活に関する行為について、現状変更運用基準を整理し、手続きの迅速化を図る。
- ・本遺跡と関連する周辺の遺構について、一体的な保存を図るため、指定範囲の拡大を進める。
- ・公有化により、遺跡の確実な保存と良好な遺跡環境の形成に努める。  
⇒下城戸の一乗谷川右岸部分の指定範囲拡大及び公有化、山城跡を含む東側山林部の公有化を進める。



一乗谷朝倉氏遺跡全景(南から)



ボランティアによる史跡清掃

### 【活用】

- ・歴史を学び、戦国時代を体感できる学習資源の場として活用する。  
⇒修学旅行、遠足、社会見学等の学校による団体利用を促すなど、教育委員会とも連携し、学習資源としての活用を図る。
- ・観光資源、地域資源として遺跡の本質的価値を再確認し、情報発信と環境整備に努める。  
⇒北陸新幹線福井開業や中部縦貫自動車道県内開通を好機とし、遺跡の魅力を最大限に活かし、周辺の関係施設や関係地域と連携した活用を図る。
- ・地域住民の生活に配慮しながら活用を進め、持続可能な地域づくりに貢献する。  
⇒地域住民等と積極的に連携し、本遺跡への理解と愛着を深めることにより、遺跡の保存・継承の担い手となるような機運醸成の取組を検討する。



一乗子ども観光大使



越前朝倉戦国まつり

### 【調査】

- ・本遺跡の本質的価値を調査研究で深化させる。  
⇒考古学・文献史学・建築史学・造園学・保存科学・土木工学等、多方面から学際的に調査研究を進め、本質的価値を顕在化・深化させる。
- ・特別史跡指定範囲内における発掘調査を計画的に実施する。  
⇒上城戸地区の発掘調査を継続し、土塁や濠で構成される城戸の構造と防御施設周辺の様相を面的に解明する。  
⇒山地部の防御施設の様相を把握し、平地部と一体となった城下町の防御施設の解明を目指し、一乗谷城跡・櫓跡・出城跡等の調査を行う。
- ・学際的で先進的な調査研究を推進し、本遺跡の価値をより重層的に深める。  
⇒過去の出土遺物や遺構の再検討を行い、調査を深化させることを目指す。



諏訪館跡庭園の発掘調査



上城戸地区

### 【整備】

- ・本質的価値を保存し継承するため、経年劣化や災害等に対応した整備をする。  
⇒露出展示遺構の経年劣化に重点的に対処するとともに、甚大化する自然災害及び獣害に十分対応する。
- ・見学者に対し本遺跡や歴史に関する情報を正確に分かりやすく提供する。  
⇒AR等の技術を用いた見学ツールや、戦国期の生活を疑似体験できる施設や設備を充実させる。
- ・多様な活動ニーズを踏まえ、本遺跡を快適に周遊するための環境を整える。  
⇒見学ルートの周知や統一した案内サインの設置等を行うとともに、バリアフリー等に配慮した動線の整備を行う。



朝倉館跡の回遊・鑑賞施設

### 【景観】

- ・美しい自然や風景の上に、450年以上が経過した現在も城下町としての栄華をうかがわせる朝倉氏の遺跡や、人々の生活や営みなどが融和している”本物が感じられる”景観を、次代へと継承する。  
⇒景観の保全整備にあたっては、「重なり合う景観を保全すること」、「指定地外の景観を保全すること」を念頭に、3つの風景のあり方を基本とする。
  - (1) 地形とともに四季の移ろいのある原風景
  - (2) 歴史遺産を守り戦国ロマンを感じる景観
  - (3) 遺跡とともに暮らす豊かな生活風景



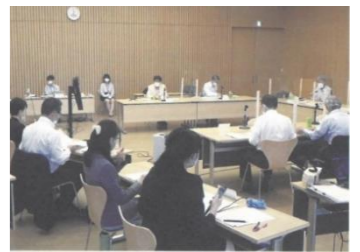
一乗谷朝倉氏遺跡の景観



復原町並

### 【運営・体制】

- ・本遺跡の適切な保存と活用のため、県と市の役割分担の確認、再検討を行い、互いに連携して事業を推進できる運営及び管理体制を構築する。  
⇒現状体制を維持しながら相互連携の強化を図る。  
⇒学識経験者等で構成される朝倉氏遺跡研究協議会や文化庁の指導、助言を受け、事業を進捗させる。
- ・県、市における関係部局、関係機関、地域住民及び民間団体等、それぞれが積極的に連携協力し、事業の円滑な進捗を図る。  
⇒教育、観光、農林、土木、防災関係等の多様な部局や関係機関との連携を模索し、行政全体で取組む体制を目指す。  
⇒(一社)朝倉氏遺跡保存協会等の民間団体や地域住民、ボランティア等との連携を深め、協働による事業展開に努める。



福井県朝倉氏遺跡研究協議会



県・市による遺跡パトロール